

大ホールに関する意見

【音響】

意見の概要

- ・新しく市民会館を建てるなら、ホールごとに演劇ホールや音楽ホール等機能を特化する、あるいは響きが豊かな音楽系に特化したホールを建てる検討をすべき。
 - ・市民会館を作るのであり、ただのホールを作るのではない。市民の通常の使用や、成人式や合同音楽祭なども含めて考えるべき。
-
- ・複数のホールを備えた市民会館という考え方で行けば、ホールごとに演劇ホールや音楽ホール等機能を特化して整備を考えていく時期に来ているのではないか。
 - ・残響時間が長い音楽ホールは、太鼓や吹奏楽には使いづらい。
 - ・残響音があるホールとないホールがあれば、芝居やライブなどの公演の場合、残響音がないホールを使い、スピーカーで音作りができる。目的が違うことを整理してあたらしくホールを作るべき。
 - ・維新ホールやYCAMというのは響きの少ないホールなので、響きが邪魔なイベントはそっちに行く選択肢がある。新しく市民会館を建てるなら、響きが豊かな音楽系に特化したホールを建てられるチャンスかと思う。多目的で何にでも使えると考えるよりも。
 - ・音響は聴く人によって千差万別。生の音とスピーカーを通した音で良い悪いは違う。維新ホールでのイベントの際に、今日は固い音だなと思っていたら客から良い音だったと言われた。公演会の際にも指折りの良い音と言われたこともあり、舞台に立つ人と客席とで音も違う。
 - ・アスピラートにしても松江のプラバホールにしてもクラシック音楽の演奏に適したホールであるが、そっちの方によっていくのかという感じ。
 - ・山口市で市民会館を作ろうという話であって、ただのホールを作ろうと言っているわけではない。市民が通常使う、成人式や合同音楽会なども含めてだろうと思う。良い音響を求めて良い音響のホールに行くのは自己満足の世界で、音楽の嗜好や時代によるものだと思う。演奏者がホールを選べば良いと思うので、損失ではないと思う。
 - ・コンクールも同じ会場で競うことであるのでそこで競えばいい。音響が悪いと酷評をされる必要はない。
 - ・演者が素晴らしければ、会場はどこでも音は良い。自分たちが気持ち良く弾くことで演奏が良くなるといわれる方は多い。

- ・ ランニングコスト的には、音響ホールは、明かりは明・暗だけなので出来上がったからランニングコストがかからない。贅沢な部材を使う傾向が高いから高くなるが、音だけにこだわって作ればそんなにお金はかからないはず。オペラをやろうとすると難しいが。そういうところをコミットしてホールを作れば、問題にならないし、それが売りになるのではないか。
- ・ 音響の面で、市民会館で吹奏楽をやりにくい理由として、客席に届く音とステージ上で演者が効く音が乖離していることが挙げられる。ステージ上では隣の音も聞こえないくらいなのに、客席には聞こえているとか。N響レベルのオーケストラが来ればそれなりに鳴らす。アマチュアが使うとどうなるかという。練習で使うならあまり響きすぎるのは良くない。ベストなのは客席とステージ上が同じ響きで聞こえること。
- ・ 音響は部材というよりは形状。専門業者は音響の設計やシミュレーションをするので、こういう音が届けられるのではないかということが調べられる。
- ・ 音響は突き詰めていっても、全てを満足させる完璧なものはない。
- ・ 市民会館のような劇場の形とシューボックス形で比較すると、シューボックス形の方が音を作りやすい。上や壁に板をつけて音作りをするので設計がしやすい。

【オーケストラピット】

意見の概要

絶対に必要という意見ではなく、まず再整備後の市民会館に必要かどうかを検討し、設置する場合も足音が響くなど現在の課題を解消して使用時に悪影響が出ない設計とするべき。

- ・ オーケストラピットは市民会館開館50周年事業などで使ったが、本来のオーケストラピットとして使われたことは、回数としては少ない。
- ・ 観客席の座席、床を撤去して使うが、狭いし、座席がすごく重い。
- ・ 周南の文化会館は、奈落に椅子だけ収納して、椅子がない状態で上がってくるので舞台上で使える。奈落に椅子をもっていけばオーケストラピットになるという作りが全国的に活用されている。
- ・ 山口市民会館では人力で床を外して、座組も全部外すことになる。また、外した座席を置く場所がないのが1番大きな課題。

- ・ 開設した1971年の段階では奈落に沈める発想はまだなかったのではないかな。その後80年代にかけてどんどん進歩していったのでは。
- ・ 山口市民会館のオーケストラピットは1列目から3列目だが、周南市文化会館は5列目までになっているから、その分広い。
- ・ 新しい市民会館にオーケストラピットが必要かどうかを考える必要がある。
- ・ オーケストラピットを作るにしても、今のように客席として使うときに足音が大きくならないように改善したほうがよい（下が空洞であるため、上を歩くと足音が響いてしまう）。

【動線】

意見の概要

展示ホールや小ホールをリハーサルで使う時もあり、観客の動線と出演者の動線の切り分けなど、動線の配置について検討すべき。

- ・ 展示ホールと小ホールをリハーサル会場として使う時、大ホールのもぎりをする場所が問題になる。一般のお客さんの動線と、リハーサルに向かう団体の動線が、大ホールの出入口で交差する。シンフォニア岩国は、観客の動線と出演者の動線は完全に分けられている。動線をうまく配置することが重要であり、改修や建替えのときに工夫すべき。

【収容人数】

意見の概要

- ・ 2,000人収容可能な維新ホールがあるので、1,200人規模にしてはどうか。
- ・ 採算ベースを考えると現状の1,500席程度が望ましいのではないかな。
- ・ 収容人数の拡大ではなく楽屋等の充実などにより市民会館の魅力を高めるべき。

- ・ 小田原の三の丸ホールは、もともと市民会館だったものを最近改装して、いかにもクラシックに向いているようなホールになった。収容人数は1,100人。1,200人では採算がとれないという意見も出てくると思うが、維新ホールは

2, 000人収容可能であり、それぐらい必要であれば維新ホールを使ってもらい、市民会館は1, 200人ぐらいに対応できるようにしてはどうか。しっかりした楽屋があって、胸を張って新しい市民会館だと言えるようなものができれば良い。

- ・ 採算ベースを考えると現状の1, 500席程度が望ましいのではないか。

【舞台・楽屋・搬入口】

意見の概要

舞台や楽屋、搬入口が狭く、きちんと整備をするべき。

- ・ 使う側からすれば、広い舞台とリハーサル室、楽屋がきちんと整備されていることが重要。照明や音響もハイテク化しており、舞台スタッフの作業が簡略化できるような機器が導入できれば、リハーサル時間も短縮でき、借りる時間も短くなる。

【その他の意見】

- ・ 岡山ではダンスインキュベーションといって、演劇とダンスを混合したようなものを、若い世代の方を20人くらい集めて育てるということをやっている。文化を育てる意味合いを含めたホールという視点を聞いた。
- ・ 熊本県立劇場は、コンサートホールと演劇ホールを併設しているが、20年前くらいから目的を分けて大ホールと小ホールを併設するという流れができてい。また、YCAMが近いかもしれないが、ホールが文化を創っていくという位置づけで、共創型ホールが割と長く市民に受け入れられやすいのかと思う。
- ・ 長久手のホールを視察に行ったことがあるが、立ち上げ時はこういった審議会を1年単位でメンバーを変えて3年かけて実施し、市民との対話を密にして作っていったとのこと。
- ・ ホールが人を育てるという話があったが、どんな人・文化がそこに育つかということだと思うので、どんなモノを作るかということに重きを置くのが良いと思う。
- ・ プラバホールの改修も大変だったと聞いているが、準備に5年かかったとのこと。急がずに考えて作ると納得ができると思う。